

学校法人 桑沢学園

2023年度 事業計画

I はじめに

創立者 桑澤洋子は、昭和初期から建築・室内設計・服飾等のデザインジャーナリズムの世界で活躍。その中で、1919年に建築家グロピウスによってワイマールに設立された、造形芸術の総合学校「バウハウス」の存在を知り、その影響を強く受ける。機能性や合理性を追求したデザイン活動をすすめる中で、デザインの総合的な基礎教育と専門教育の重要性を痛感した彼女は、教育機関の実現のため努力を重ね、1954年、各界気鋭の教育者、芸術家、デザイナーたちの協力を得て、当時としては画期的なデザインの専門学校「桑沢デザイン研究所」を設立した。さらに高度な造形教育を追求する場として1966年には「東京造形大学」を設立し、今日に至る。

2023年度の桑沢学園の重点事業計画としては、新教育施設の改修工事（2期）における各事業所との整備計画の検討、インボイス制度導入対応、新たな方針での資産運用の検討と施策実行を行っていく。

東京造形大学においては、教育効果の高いソフトウェアの使用環境の確保、ネットワーク環境の更新、実習室の機材更新や環境改善などを中心として、引き続き新型コロナウイルスへの安全対策を継続しつつ、アフターコロナへ向け、コロナ前のキャンパス体制になるよう進めていく。

桑沢デザイン研究所においては、取得した新教育施設の改修工事（1期）を終え、本年度より学生を迎え授業運営の実施、奨学金制度再編の検討、SNSでの情報発信を行っていく。

II 中期計画テーマ

1. 【埋蔵資源発掘】表現を通じて私と他者を発見する造形教育の実践（＝教育研究）
2. 【森林公園計画】対話が生まれる自由闊達な空間づくり（＝学生支援、キャリア支援）
3. 【見える化】教育成果の社会発信と知識循環（＝広報、国際交流、社会連携）
4. 【やりがい・働きがい】多様な価値観を基盤にした仕事環境づくり（＝労務）
5. 【万が一のそなえ】社会変動に迅速に対応するリスク管理（＝リスク管理）

Ⅲ 中期計画テーマに基づく主な事業計画

東京造形大学

【埋蔵資源発掘】 表現を通じて私と他者を発見する造形教育の実践

- (1) 工房の機能を充実させていくとともに新棟建設の位置づけと方針を決定していく。
また、工房担当者の役割の明確化と中長期計画的による人員配置を行っていく。
- (2) 教育成果の意見交換や教員間のコミュニケーションの活性化を目的として、非常勤教員を招いた交流会を再開していく。
- (3) 2026年度以降の教育改変にあたり、現状の教育現場のヒアリングによる検証を進めながら構想案の検討を実施していく。
- (4) 学士課程・修士課程における新教育課程の構想案の検討及び教育の質向上に関する検討の実施。
- (5) 4号館教室、7号館、8号館実習教室の機材更新（PC、写真引き伸ばし機、音響機器のデジタル化）を行い、学生への教育環境及び教育効果の充実。
- (6) Adobe 包括契約及び student option(契約更新年度3年契約1年目)を実施し、学生への教育効果の充実、教職員、学生と同ソフトの安定した使用環境の確保。
- (7) Protocols HD 一式インターフェース等の老朽化に伴う更新、音響関連機器及び同ソフトウェアの安定した使用環境の確保、教育効果の充実。

【森林公園計画】 対話が生まれる自由闊達な空間づくり

- (1) 学生同士、教職員による対話空間や憩いの場として、自然豊かなロケーションを有効活用した遊歩道の整備を段階的に実施していく。
- (2) 対面カウンセリングの増枠やリモートによる相談窓口の拡充から、学生の心のケアをすると同時に休学者、退学者の予防を展開していく。また、相談者に寄り添った対応をおこなうための新たなスクール・カウンセラーの配置を行う。
- (3) 奨学資金の構造改善により経済的支援の強化を行い、学生の要望と支給をマッチングさせた制度に見直しを行う。
- (4) 卒業後のキャリア形成に向けた支援の充実を図るとともに、学生一人ひとりのニーズに応じた配慮や相談しやすい環境づくりの推進。

【見える化】 教育成果の社会発信と知識循環

- (1) コロナ禍期間停止していた教育成果の発信を再開。第1弾としてアニメーション専攻領域を中心とした山手線ミュージアムを開催する。

- (2) 社会で活躍する造形大出身者の若手を多岐分野にわたり発掘して、表彰、事業支援することにより、卒業生とのネットワーク化へつなげる。
- (3) 感染症の防止策を十分に講じた上で対面活動での学生募集活動の実施。
- (4) 建学の精神をはじめとする本学の教育理念に基づく教育研究成果の積極的な社会発信。

【やりがい・働きがい】多様な価値観を基盤にした仕事環境づくり

- (1) 働き方の改善活動や社会の変化や価値の多様化に即した新しい働き方のモデルを中、長期的な視点で構想し実現に向けて、桑沢ワークシフトプロジェクトを推進していく。

【万が一のそなえ】社会変動に迅速に対応するリスク管理

- (1) 社会行動規範強化の仕組みづくりとして、大学・研究所による学園内で発生している各問題点を共有すると同時に、ルール・プロセスの整合性や教育、防止対策を新設した法務室を軸に大学、研究所および各関連委員会と協力して進める。
- (2) ネットワーク基幹の再構築として、リモートによる教育や勤務などの利用の拡張を視野に進めていく。また、スマートフォンによるプラットフォームの構築を推進し、既存で使用されているアプリなどを調査して、導入検討を進める。
- (3) 将来的な建物老朽化、都市計画道路の敷設を踏まえた整備計画の策定のためコンストラクションマネジメントの導入。
- (4) 構内への電源引き込みケーブル及び7号館3F空調設備の更新他老朽化対策。
- (5) 学内における感染クラスター発生を防止する観点からの課外活動の指導。

専門学校桑沢デザイン研究所

【埋蔵資源発掘】表現を通じて私と他者を発見する造形教育の実践

- (1) 昼間部総合デザイン科入学定員増に伴う、1年次5クラス化の実施。
- (2) 2021年度に新たに取得した渋谷区神南の新教育施設を活用した授業運営の実施。
- (3) 夜間部専攻デザイン科の教育課程を通して、社会人でも受講可能な職能教育を提供。
- (4) 夜間部附帯教育を通して、幅広い層へのデザイン教育を提供。
- (5) 研究助成金の効果的な活用のため、研究助成制度の再編、及び研究成果の公開促進。
- (6) 2022年度から導入した授業改善アンケートの検証・改善、及び活用。

【森林公園計画】対話が生まれる自由闊達な空間づくり

- (1) 新教育施設の運用計画の検討、及び既存設備の年次計画による改修。
- (2) 老朽化した空調設備の年次計画による入替。
- (3) 奨学金制度再編の検討。

【見える化】教育成果の社会発信と知識循環

- (1) オンラインツールを活用した遠隔地の志願者に対するPR、説明会の実施。
- (2) 公式Webサイト、SNS等を用いた情報発信。
- (3) 「卒業生作品展」など、展覧会を通じた教育成果の情報発信。
- (4) 2022年度に設置した企画広報委員会を通じた教育活動の学外への情報発信、及び学外との連携事業を促進。
- (5) 新教育施設を活用し、社会に向けた情報発信の機会を模索。
- (6) Web出願による志願者の利便性の向上。

【やりがい・働きがい】多様な価値観を基盤にした仕事環境づくり

- (1) 優れた取り組みを称え、感謝する風土の醸成。
- (2) 働き方の改善活動や社会の変化や価値の多様化に即した新しい働き方のモデルを中、長期的な視点で構想し実現に向けて、桑沢ワークシフトプロジェクトを推進していく。

【万が一のそなえ】社会変動に迅速に対応するリスク管理

- (1) 18歳人口減少に伴う経営状態の変動に備え、収支の安定性を構築する施策を検討。
- (2) 新型コロナウイルス再拡大時の授業運営方法に関する検討。

学校法人 桑沢学園

【森林公園計画】対話が生まれる自由闊達な空間づくり

- (1) 渋谷新教育施設の改修並びに運用体制の整備。
- (2) 施設計画と連動した予算編成の実行と定着化。

【やりがい・働きがい】多様な価値観を基盤にした仕事環境づくり

- (1) 働き方の改善活動や社会の変化や価値の多様化に即した新しい働き方のモデルを中、長期的な視点で構想し実現に向けて、桑沢ワークシフトプロジェクトを推進していく。

【万が一のそなえ】社会変動に迅速に対応するリスク管理

- (1) インボイス制度の導入に伴う対応の実施。
- (2) 資産運用の新方針の検討と施策実行。
- (3) 法務・コンプライアンス・ハラスメント・FD の関係者による、継続的な意見交換会の実施及びルール・プロセスの整合性化や防止対策の検討と実施。

以上